

2026年度 稲盛科学研究機構（InaRIS） フェローシッププログラム 募集要項

公益財団法人 稲盛財団

稲盛財団では、2026年度稲盛科学研究機構（Inamori Research Institute for Science: 略称 InaRIS）フェローシッププログラムの募集を下記要領で行います。

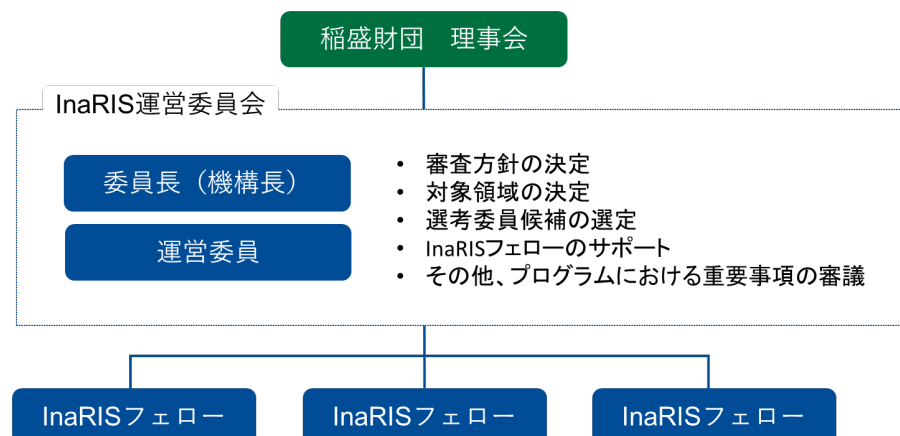
1. InaRISフェローシッププログラムの趣旨

本プログラムは、「人のため、世のために役立つことをなすことが、人間として最高の行為である」という稲盛財団創立者 稲盛和夫の理念に基づき、基礎科学の研究者を長期的に応援し、さらには、将来的に日本の科学を牽引する人材の育成を支援することを目的としています。選ばれた研究者は、1年あたり1,000万円の研究助成を10年間にわたって受けるとともに「稲盛科学研究機構フェローシッププログラムフェロー」（InaRISフェロー）の称号を名乗っていただき、自身の実績に立脚しながら、たゆまぬ探究心に基づいた長期的な視野で挑戦的な研究を推進し、新しい分野の開拓、発見や発明によって、研究者としてより一層飛躍することを期待します。InaRISフェローシップは、研究課題だけではなく、研究者の持つ志や熱意、そして未知なる領域へのあくなき挑戦心、すなわち「人」そのものを応援する制度です。

2. InaRISの運営

InaRISはキャンパス・建物を持たないネットワーク型の研究機構（仕組み）です。稲盛財団は、個人単独の力だけではなく、交流によって生み出される創造力も重要視しています。つまり、InaRISフェロー同士を繋げ、切磋琢磨する場を作ります。InaRISの運営については、運営委員会が審査方針の決定、選考委員候補の選定、フェローへのサポートを行います。フェローの選考は運営委員会とは別に設けた選考委員会により行われます。フェローは自らの所属する大学・機関で研究活動を行います。運営委員会のメンバーや、他のフェローとオープンな意見交換も行いつつ、研究を推進していきます。

InaRIS 運営体制



3. 募集対象

① 対象とする研究

2026年度は「非平衡科学の展開」に関する研究を対象とします。

非平衡科学は、流れや変化が本質となる現象を体系化する学問です。特に、物質科学の基盤のひとつである熱力学・統計力学によって体系化された平衡系の科学との対比を踏まえて、新しい基礎科学を構築することを目指しています。19世紀に確立した流体力学をその始まりとして、20世紀には多様で複雑な現象を表現する簡単な法則があることが明らかになりました。不規則な時系列を生み出す機構を与える「カオス」、および、自励振動やチューリングパターンなど非平衡条件下で自己組織化される「散逸構造」がその代表的な研究対象でした。21世紀では学際融合的な側面がさらに強まりました。小さな分子機械に対する熱力学の体系化を目指した「ゆらぐ熱力学」では、ゆらぎの定理を機軸にした新しい形式が発展し、エネルギー変換と情報のやりとりの制約が統一的に定式化されようとしています。また、鳥の群れの運動のようにアクティブな素子の集まり（アクティブマター）が示す協同現象は、生命の階層構造の理解を目指して精力的に研究されています。ミクロとマクロの関係をより広い視点で捉え、ネットワークの考え方を積極的に取り入れることにより、生態学や環境科学あるいは経済社会現象に関わるダイナミクスも研究対象になっています。伝統的な物質科学においても、冷却原子系や光駆動系などの実験制御技術の発展により、孤立量子系ダイナミクスにおける平衡化機構や非平衡開放系における新奇物性の発現機構が解明されようとしています。これらの発展は相互に関係しており、それぞれの研究対象にはっきりとした境界がないのが特徴です。また、研究をすすめる中で、幅広い非平衡現象の中から新しい研究対象のグループが形成されてきました。今後の非平衡科学の展開においても、これまでの発展を踏まえつつ、新しい研究対象が見いだされることが期待されます。情報科学、生命科学、地球科学、物質科学などの既存の分野にとらわれることなく非平衡を鍵にした学際融合研究が展開されるでしょう。そして、そこで生まれた新しい考え方や方法を深化させることで普遍的な学問体系の創出につながることが望めます。これらの観点において卓越した研究提案を募集します。

研究の主要な狙いと具体例：

- 非平衡がもたらす学際融合研究の展開
例：動的生命現象に対する非平衡論の構築、異常気象や疫病伝搬のダイナミクスへの新しい着眼
- 非平衡に関わる基礎科学の深化
例：ミクロスケールにおける非平衡現象の開拓、物質科学と情報科学の統合

② 申請者の資格

下記a.からd.の要件をすべて満たす方とします。

- a. 日本に居住し、募集案内を送付した大学・機関に所属し、常勤で雇用されていること。
(注1)
- b. 独立研究者で、大学所属の場合は准教授以上とする。大学以外の所属の場合は上記に相当するものとする。
- c. 助成年度開始時に50歳以下であること。(2026年4月1日時点)

- d. 稲盛研究助成を受けている方は、その研究期間が2026年4月1日時点で残っていないこと。

注1. 任期付きの職でも可。ただし申請時および2026年度（2026年4月～2027年3月）まで申請時と同じ所属機関に雇用が保証されていること。なお、2026年度中は申請時と同じ機関で研究を行うことが望ましい。

※本プログラムは、研究者の多様性を重視し、性別、国籍問わずさまざまな研究者を支援するものです。特に女性研究者からの積極的な応募を歓迎いたします。

4. 本制度の概要

① 採択人数と助成金額

募集対象から2名を選びます。フェローに選ばれた方には、研究費として毎年1,000万円を2035年度までの10年間にわたり助成します。また、毎年1,000万円の直接経費に加え、100万円を上限とする管理的経費を研究機関に支払います。なお、本助成を稲盛財団の他の助成と重複して受けることはできません。

② 助成金の使途および管理

助成金は所属機関の定めにより適切に管理していただきます。あくまで本人の研究活動のために必要な費用としてご使用いただきます。ポストクや研究を補佐するスタッフの人件費として使用することは可能です。また、以下の使途としては使用できません。

- フェロー本人、および申請者の親族もしくはそれと同等の親密な個人的関係者を雇用した場合の人件費。
- 研究目的に合致しないもの。
- 管理的経費による支出が適当と考えられるもの。

③ 研究期間

2026年4月より、10年間とします。

④ フェローの責務

フェローの責務は下記の通りとします。

- 対象研究の論文には本人の所属に「Inamori Research Institute for Science」（注2）も記載する。
- フェローに選ばれた年のフェロー授与式への出席。
- 年に1度のアドバイザー・ボード・ミーティング（注3）への出席、進捗状況の報告。
- 1年ごとの会計報告書提出。
- 年に1度、稲盛財団による研究室訪問の受入れ。
- 3年目および6年目に中間報告書の提出と、中間審査への参加。中間報告書は公開しません。
- 期間中に1回以上稲盛財団のアウトリーチ活動への協力。
- 終了後1ヶ月以内に報告書を提出。報告書は公開します。
- 終了後の成果発表会開催。

注2. 本務先と併記 和文の場合は「稲盛科学研究機構」

注3. 運営委員とフェローが参加します。

その他、稲盛財団の主催する行事への出席、出演をお願いすることがあります。

⑤ InaRISフェローの決定

2026年3月に決定し、対外発表します。なお、結果につきましては申請者本人に通知いたします。

⑥ 助成金の振込時期

初年度は2026年4月以降、当財団および所属機関における事務手続き完了次第、所定のタイミングで振り込みます。以後、毎年4月に振り込みます。

⑦ 助成の停止

育児休業等を取得される場合は、一旦助成を停止し、研究を中断する期間に応じて研究期間を延長することができます。

また、後出の不正使用、不正受給、不正行為について疑義が持たれた場合に助成を停止することがあります。当該停止の原因が解決または終了したと財団が判断した場合は助成を再開し、不正として確定した場合は後出⑨を適用します。

⑧ 助成の中止

以下の場合は助成を打ち切り、残金を返還いただきます。部下や同僚の方が残金を使用することは認められません。

- 本人が死去、または病気等により研究の継続が著しく困難になった場合
- 海外の研究機関に異動した場合
- 本人が下記以外の研究機関に異動するなど、活発な研究活動が不可能になった場合
 - 1) 大学、および大学共同利用機関
 - 2) 国の機関、地方公共団体の機関・地方独立行政法人
 - 3) 独立行政法人・国立研究開発法人・独立行政法人等登記令別表に掲げる法人
 - 4) 「文部科学大臣指定の機関」のうち公益財団法人である研究機関

* 短期大学、高等専門学校は不可
- 稲盛科学研究機構の名誉を著しく傷つけた場合

⑨ 不正使用、不正受給又は不正行為への対応

下記が判明した場合、助成金の一部または全額を返還していただきます。また、以後の助成は行いません。

- 申請書類記載内容において事実と異なる記載があるなど、不正に本助成を受けた場合（不正受給）
 - 本助成以外も含め、研究費の不正使用があった場合
 - 研究活動において不正行為があった場合
 - 稲盛科学研究機構の名誉を著しく傷つけた場合
- ※不正受給、不正使用、不正行為の定義については科研費に準じます。

- ⑩ 発明等に係る知的財産権の取扱いについて
本助成により生じた成果はフェローに帰属しますが、特許権等の知的所有権の取扱いについては、所属する研究機関の規程などに従ってください。
- ⑪ 研究倫理について
所属機関の研究倫理に関する各種規程や指針に従ってください。

5. 選考

① 選考プロセス

- 選考委員会が、「稲盛科学研究機構フェロー申請書」に基づいて選考し、まず数名の候補者に絞り込みます。
- 候補者に残った方には2025年12月21日に面接審査を行います。稲盛財団にて、選考委員に対して発表・質疑応答を行っていただきます。（代理出席不可）
- 選考委員会によりInaRISフェローを選出します。
- 2026年3月の理事会において正式決定いたします。

② 主な選考基準

「人」に助成するという趣旨をふまえ、以下の要素を参考にしながら、申請者の研究に対する姿勢、考え方も含めて、総合的な観点で選考されます。（順不同）

- 独創性：独自の着眼点に立脚し、重要な発見や発明につながっているか。
- 革新性：従来の考えに捉われない革新的な要素があるか。
- 国際性：世界の潮流の中で国際的に認められる新規性と一般性を持つか。
- 継続性：十分な研究実績を持ち、さらなる飛躍を意図しているか。
- 連続性：研究内容に助成期間を通した一貫性があり、10年間の助成にふさわしいか。
- 発展性：長期的視野に立った新しい分野の開拓につながるか。
- 社会性：人類社会に貢献し人間の叡智を示すものであるか。

6. 申請手続

① 申請方法

当財団のウェブサイトより、下記の要領にて申請してください。募集締切までにウェブシステムを通じた申請手続きが完了していない場合は、いかなる理由があっても審査の対象とはいたしません。

(1) マイページID取得

- i. 稲盛財団ウェブサイトのトップページ (<https://www.inamori-f.or.jp>) にアクセスし、「研究助成」から「申請」のタブを選択して画面下部のバナー「InaRIS申請専用サイトへ」をクリック
- ii. 画面のガイドに従ってマイページを取得

(2) 申請書類の作成

- i. マイページにログイン

- ii. 「申請書」「編集」で必要情報を入力^{※1}
- iii. 「研究内容」「フォーマットのダウンロード」で様式(MS-Word形式)をダウンロード。内容を記入^{※2-4}の上、PDFに変換後アップロード

(3) 推薦書

- i. 「推薦書」「フォーマットのダウンロード」で様式(MS-Word形式)をダウンロード
- ii. 推薦者による必要事項記入
- iii. 推薦者による**公印**を押印
- iv. 押印書類の**カラースキャンPDFデータ**をアップロード

(4) 論文

代表論文をアップロード(PDFデータで10報まで)

注意事項

- ※1 申請者が複数の部署に所属していても、入力する部署は必ず1つとし、複数は入力しないでください。
- ※2 フォントは **MSP ゴシックの11ポイント**を厳守してください。
- ※3 「他の助成金・補助金・奨励金受領状況」(14ページ)以外はページの追加、レイアウト、余白の変更はできません。
- ※4 「現時点で想定される主な使途(初年度分)」の欄には、大まかな金額も記入してください。

② 推薦者

本申請には、申請者の所属する研究機関の代表者（例：大学の場合は学長、大学共同利用機関法人の場合は機構長、国立研究開発法人の場合は理事長、公益財団法人の場合は理事長）の推薦を必要とします。推薦者は、申請者が本要項の3の②の応募資格を有すること、すなわちa.日本に居住し、当要項を送付した大学・機関に所属し、常勤（任期付の職でも可）で雇用されていること、b.独立研究者で、大学所属の場合は准教授以上であること、c. 助成年度開始時（2026年4月1日時点）に50歳以下であることと、稲盛財団より貴研究機関に支払う管理的経費は100万円を上限とすること、およびフェローの責務について確認の上、ご推薦ください。なお1機関あたり応募は4件までとします。所定の様式にて推薦書を作成し、推薦者の記名(印字、ゴム印も可)・公印を押印の上、アップロードしてください。推薦者の方におかれましては、本制度の趣旨をご理解いただき、ふさわしい方をご推薦いただきますようお願いいたします。

③ 照会先

申請者の研究活動について、よくご存じの方を2名挙げてください。申請者の所属機関の長である必要はありません。そのうち、少なくとも1名は日本語で本申請内容が理解できる方とし、それぞれの方の氏名、所属、連絡先(電話/電子メールアドレス)をご記入ください。選考の過程で、照会する場合があります。なお、照会先となることについての了解を予め取得しておいてください。

④ 募集期間

2025年5月20日(火)9:00から2025年7月31日(木)17:00まで

募集締切までにウェブシステムを通じた応募手続きが完了していない場合は、いかなる理由があっても審査の対象とはいたしません。

7. 個人情報の取り扱いについて

申請書に記載された個人情報は、下記の用途に限り使用いたします。

- 選考（注4）および選考結果の通知。
- フェローに決定した場合の、対象者の氏名、所属、役職、研究題目、研究概要（注5）の公表、およびその後の各連絡。

注4. 申請書は照会先の方に見ていただく場合があります。

注5. 公表する研究概要は、改めて本人に作成いただきます。

8. その他

- ① 選考委員会での審査内容については、いかなるお問い合わせにも応じられません。
- ② 1機関あたり5件以上の応募があった場合はその機関から応募された全申請を無効とします。また、申請資格要件を満たしていない場合、申請書類に不備があった場合も無効とします。

③ お問い合わせ先

〒600-8411

京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町620

公益財団法人稲盛財団 助成部

Tel: 075-746-2543

E-mail: inaris@inamori-f.or.jp

当財団の事業内容については稲盛財団ウェブサイト (<https://www.inamori-f.or.jp>) をご覧ください。